

肺がん検診を受診される方へ

【がん検診の目的】

がんを早期に発見し、治療することで、がんによる死亡を減らすことを目的としています。がんは早期発見・早期治療で約9割が治ると言われています。しかし、早期のがんではその多くが無症状です。がん検診は自覚症状のない時期から受けることで、がんを進行していない状態で発見することができます。

【がん検診のメリット・デメリット】

がん検診を受けることには、がんを早期に発見できるというメリットがありますが、デメリットもあります。十分に理解したうえで検診を受けましょう。

〈メリット〉

①早期のがんを発見でき、救命の効果があります

早期であればあるほど、治せる可能性は高く、軽い治療で終わることができる場合が多いため、身体的・経済的な負担も少なく済みます。早期発見と適切な治療の開始、それに伴う救命が最大のメリットです。

②がん以外の病気も見つけることができます

がん検診では早期のがんだけでなく、がんになる前段階の病変（具体的にはポリープや潰瘍、異型上皮など）が見つかる場合もあります。こうした病変が軽い場合には経過を観察し、必要時は治療をすることで、がんになることを防ぐこともできます。

③安心して生活ができます

がん検診を受けて、「異常なし」と判定されれば、安心して生活することができます。しかし、1年に1回の定期的な受診を継続することが重要です。

〈デメリット〉

①結果が必ずしも正しいというわけではありません

がん検診で必ず、がんや前がん病変を見つけられるわけではありません（偽陰性）。また、がんや前がん病変でなくてもがん検診の結果が「要精検」となる場合もあります（疑陽性）。

②不必要な治療や検査を受けてしまうことになる可能性があります

検診で見つかるがんには、その後進行がんにならない等、生命に影響しないがんもあります（過剰診断）。現段階では、このようながんと普通のがんを区別することができないため、手術などの治療が行われますが、本来不要な治療だった可能性もあります。

また、偽陽性だった場合にも精密検査を受ける必要があり、結果的には不要な検査を受けることで、身体的・心理的にも負担がかかる場合があります。

③検査によって身体に負担がかかる場合があります

肺がん検診の場合、胸部X線検査による放射線被ばくがあります。

【肺がんについて】

日本ではがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。肺がん検診で早期に発見して治療することにより、肺がんで亡くなることを防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。

【検診の結果について】

- 検診結果は益田市に報告されます。
- 精密検査の対象となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があります。（痰の検査で要精密検査となった場合も痰の検査だけをもう一度受けるのではなく、必ず精密検査を受けてください。）
- 精密検査はCT、もしくは気管支鏡検査などです。
- 精密検査結果は益田市に報告されます。また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関と益田市もその結果を共有します。



喫煙者は非喫煙者と比べて男性で約4倍、女性では約3倍肺がんになりやすく、喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほどそのリスクが高くなります。受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんのリスクを2～3割程度高めます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

【お問い合わせ先】

益田市役所福祉環境部健康増進課

TEL：0856-31-0214

FAX：0856-23-7134